

はしがき

インターネット、Eメールなどの普及により、英文にふれる機会は飛躍的に増え、さらに以前にも増して*Time*や*Newsweek*などの英文を読んだり、あるいは、自ら英文を書いたりすることが要求される時代になっています。

英語では「なくてはならない接着剤」、しかし日本語には存在しないために、難しい、それなのに、なぜか専門的に解説した本がなかった関係代名詞(と関係副詞)の全貌を明らかにし、読む、書く、話す、理解する、で使えるようにすること。これがこの本の狙いです。

この本は基本的には、大学生以上、社会人や英語教師など、英語を仕事や日常生活で必要としている方々を始め、TOEIC®など各種英語試験の受験を考えている方、その他、英語を極めたいと思っている方々を広く対象としていますが、大学受験を考えておられる受験生の諸君にも資するところが大いにある内容となっています。

これで、関係詞はわからない、使えないものではなくなるはずです。

序章(第0章)にも書きましたが、英語に「受験英語」とか「実用英語」といった2種類のものが存在するわけでもなく、まして「英会話」に「英文法」はいらない、などという俗説は誤りであるというのが、かねがね抱いている私の持論です。批判されるとすれば、それは受験英語ではなく「英語指導法」であり、「文法」ではなく「どうでもいい文法用語(トリビア的な)による無意味な分類」であると私は考えます。

本書を手にする皆さんが、関係詞に対する見方を再発見いただき、英語という言葉に対する知的好奇心をかり立てていただけるならば、これに勝る喜びはありません。

なお、最後になりましたが、本書が完成するまでには、「プレイス」山内昭夫氏を始め、多くの方々から貴重なアドバイス、ご尽力をいただきました。ここに厚く御礼を申し上げます。

2005年6月

佐藤 ヒロシ

《凡 例》

- 例文中で、[] は交換可能な語句を、() は省略可能な語句を示しています。
- 意味や文法上の区切りを、適宜 [] や { } でくくって提示してあります。

- ✂ = 関係詞を含む構造を視覚的に分析した文を表しています。
- ● = 本来なら名詞があるべきなのに、関係詞節中でそれが欠落している箇所(文中の“空席”)を示しています。

- **Reading** その課で扱った関係詞のポイントを含んだ、英字新聞や雑誌、大学入試問題などからの英文です。本文中の例文と異なり、すぐそばに和訳を示してありません。これは主として、英文を読むさいのポイントですので、そのセクションのポイントが理解できているかどうか、構造などの確認とあわせて挑戦してみてください。
- **こんなふうに使えます** それぞれの章のまとめとなるものです。日本文⇒英文の順になっていることからおわかりのように、主として会話やライティングのさいに使える関係詞のポイントを含んでいます。文字通り、使えるように何度も練習し、口をついて出るようになるまで繰り返し暗誦してください。